

平成26年度 児童生徒の生活習慣病予防対策 肥満統計の概要と考察

目次

1. 支部別肥満児の割合	(小学校)	7. 支部別高度肥満児の割合	(小学校)	13. 学年別肥満児の全国との比較	(男子)
2. ”	(中学校)	8. ”	(中学校)	14. ”	(女子)
3. 肥満度別10年間の推移	(小学校)	9. 支部別やせの割合	(小学校)	15. 肥満調査結果の考察	
4. ”	(中学校)	10. ”	(中学校)		
5. 同一集団の9年間の経次推移	(男子)	11. 学年別やせの割合	(男子)		
6. ”	(女子)	12. ”	(女子)		

肥満対策委員会

委員長 山脇 英範
委員 高橋 正彦
” 平野 岳毅
” 平野 千秋
” 野末 裕紀

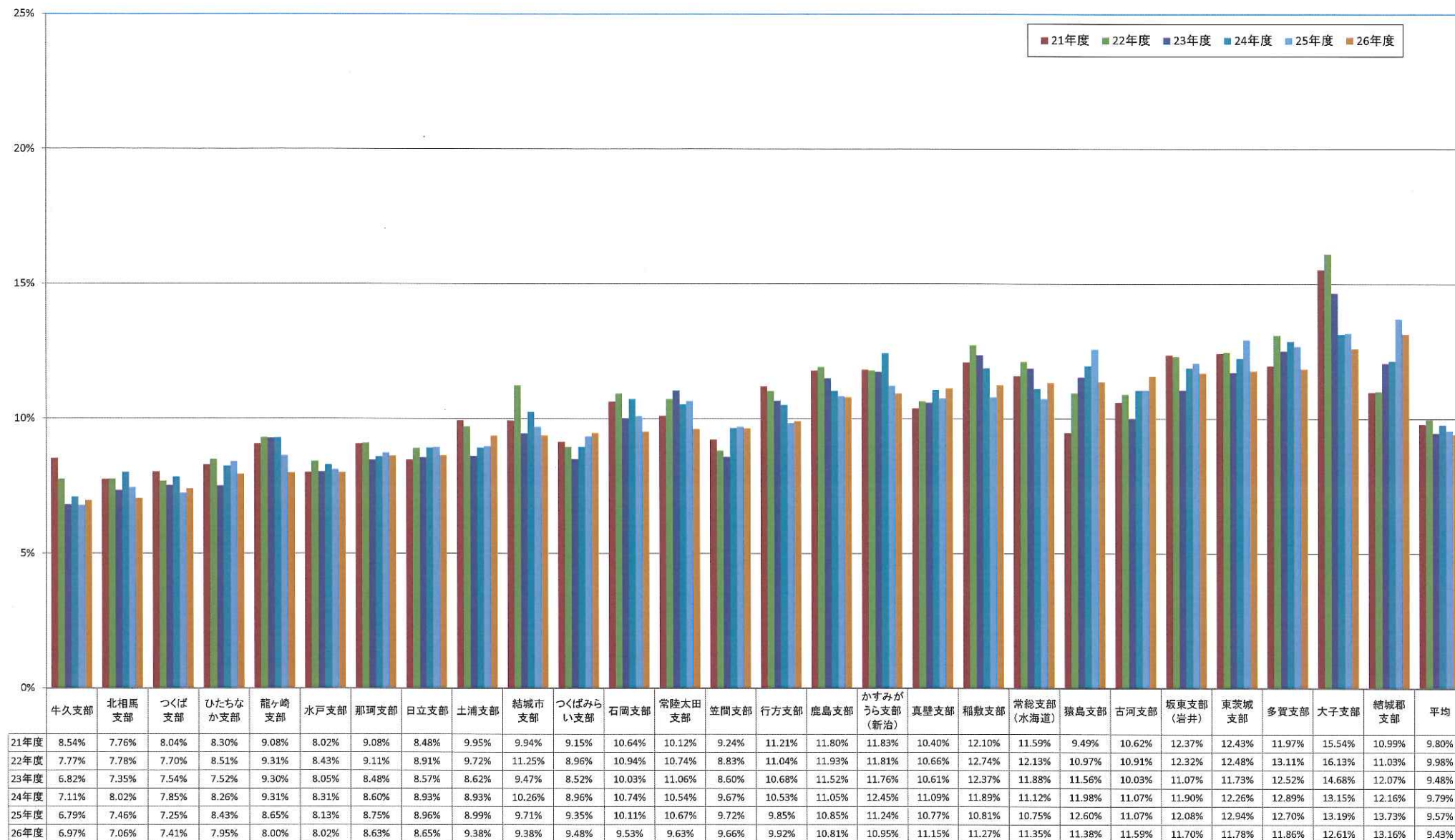
委員 荻野 義重
” 戸崎 五十三
” 上林 範子
” 小川 正一
” 海老澤 満志子

委員 片山 美千恵
” 根本 光子
” 井上 幹枝
” 永山 みち子
” 山口 広美

※詳細は各支部保健会事務局送付のCDをご覧ください。

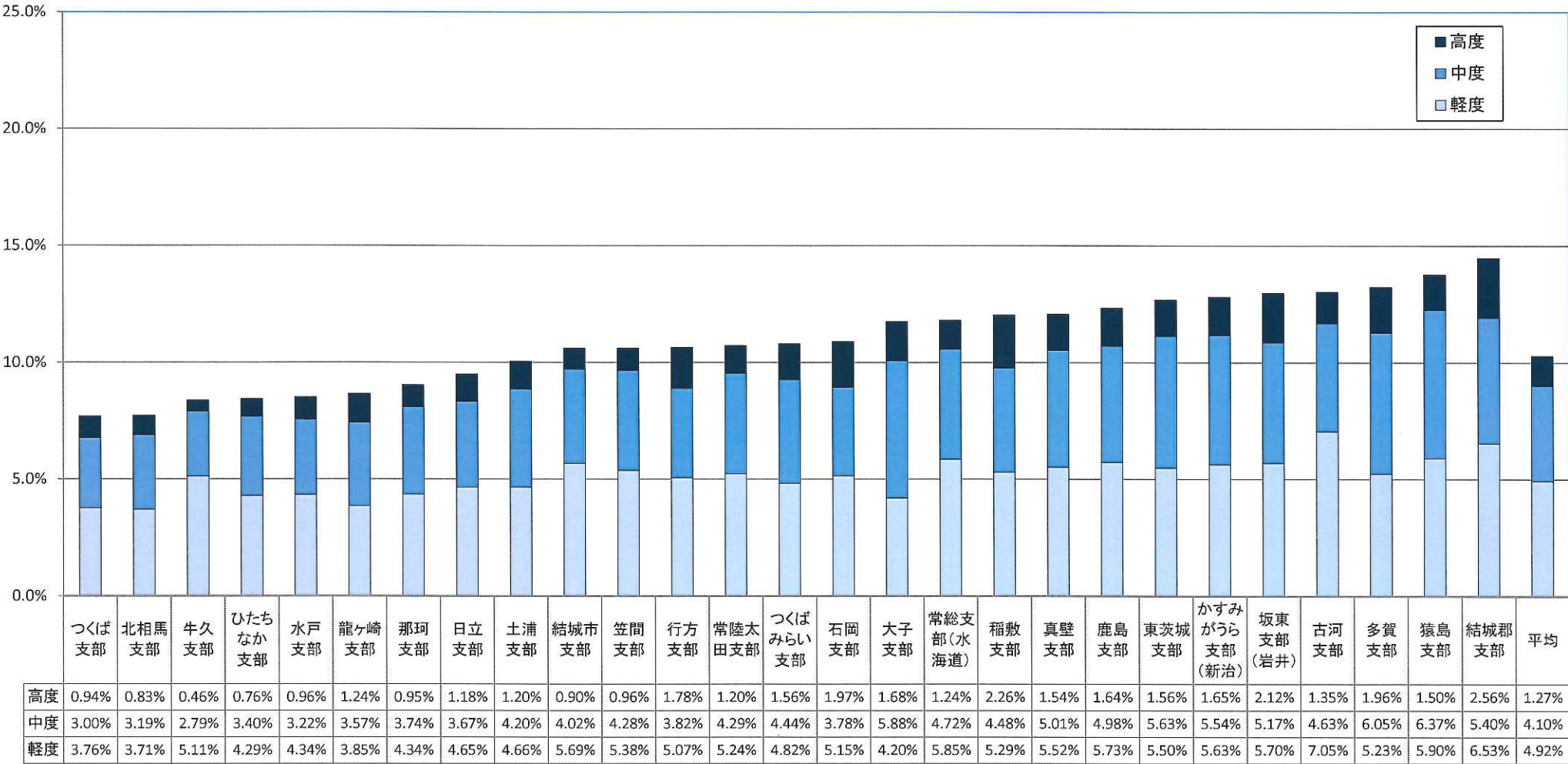
平成26年度支部別肥満児の割合[小学校]

図1



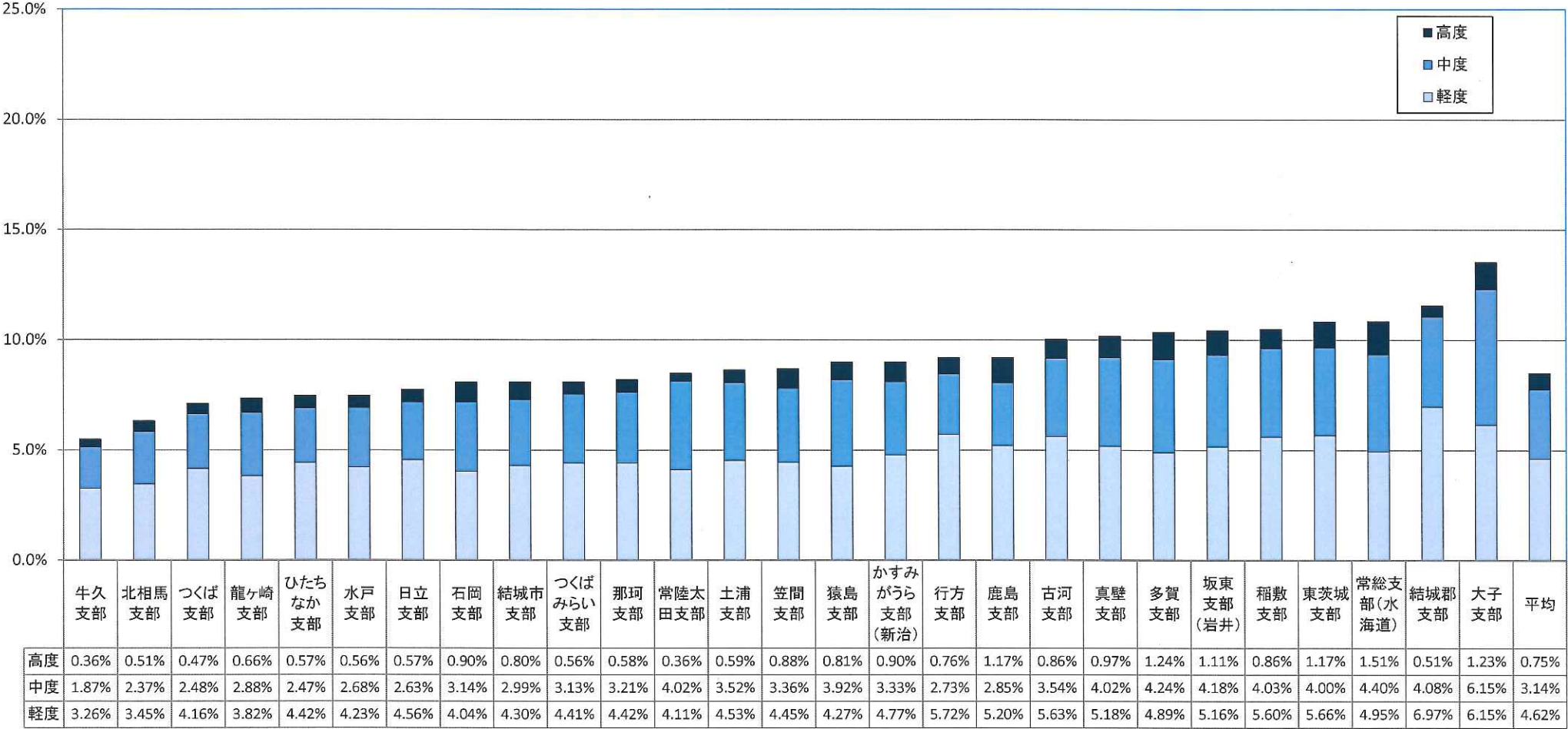
平成26年度支部別肥満児の割合〔小学校男子〕

図2



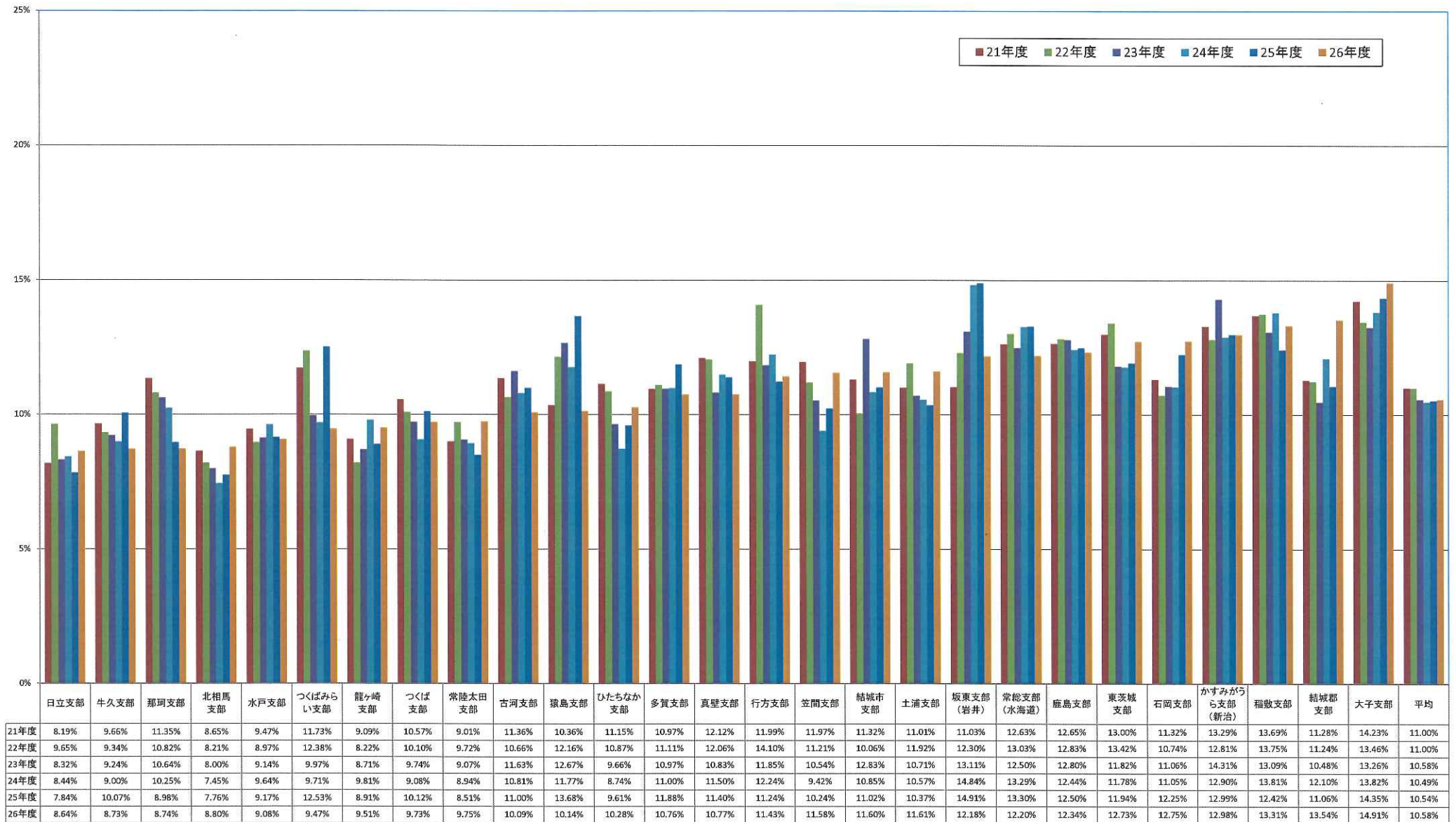
平成26年度支部別肥満児の割合[小学校女子]

図3



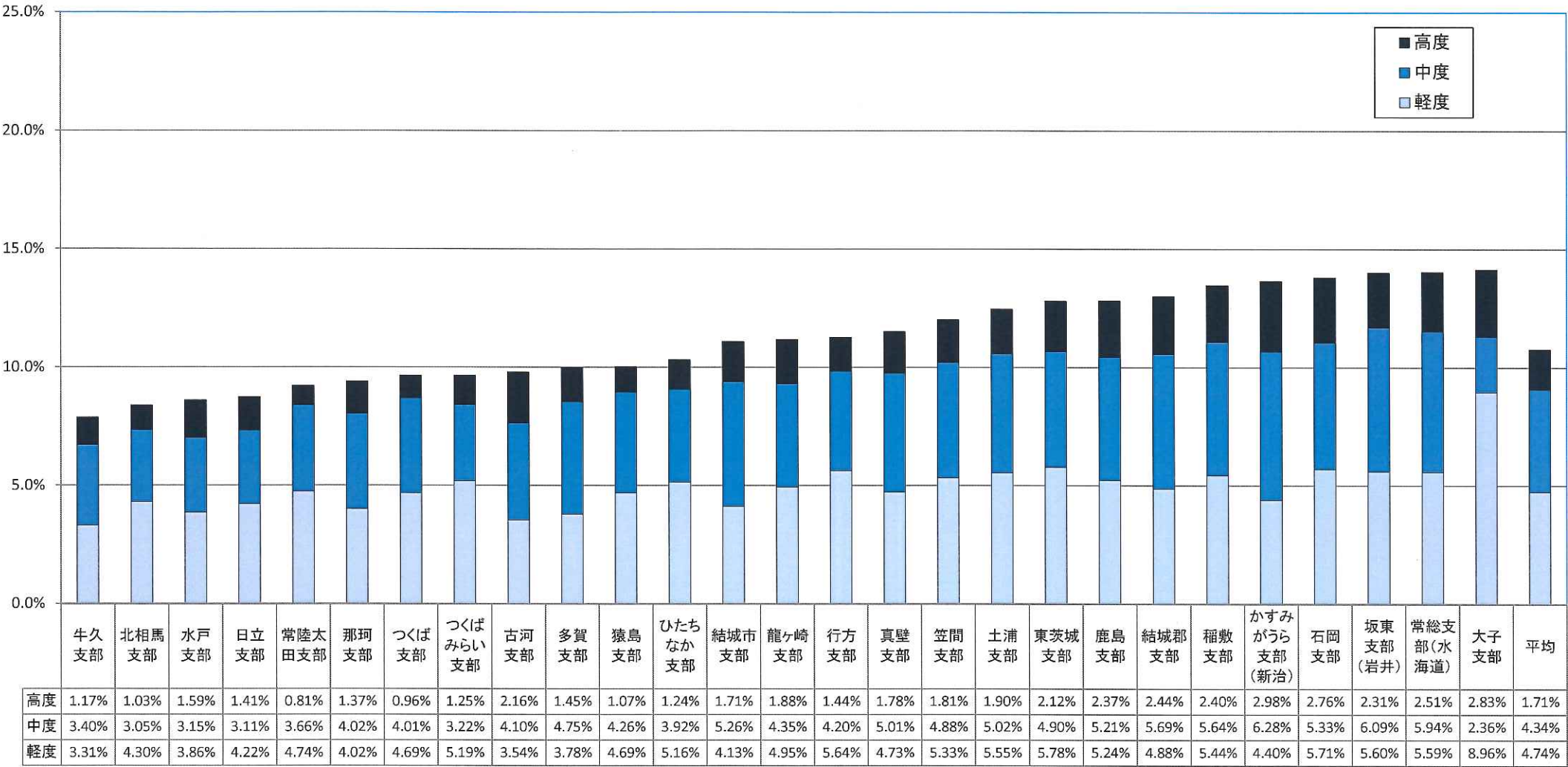
平成26年度支部別肥満児の割合[中学校]

図4



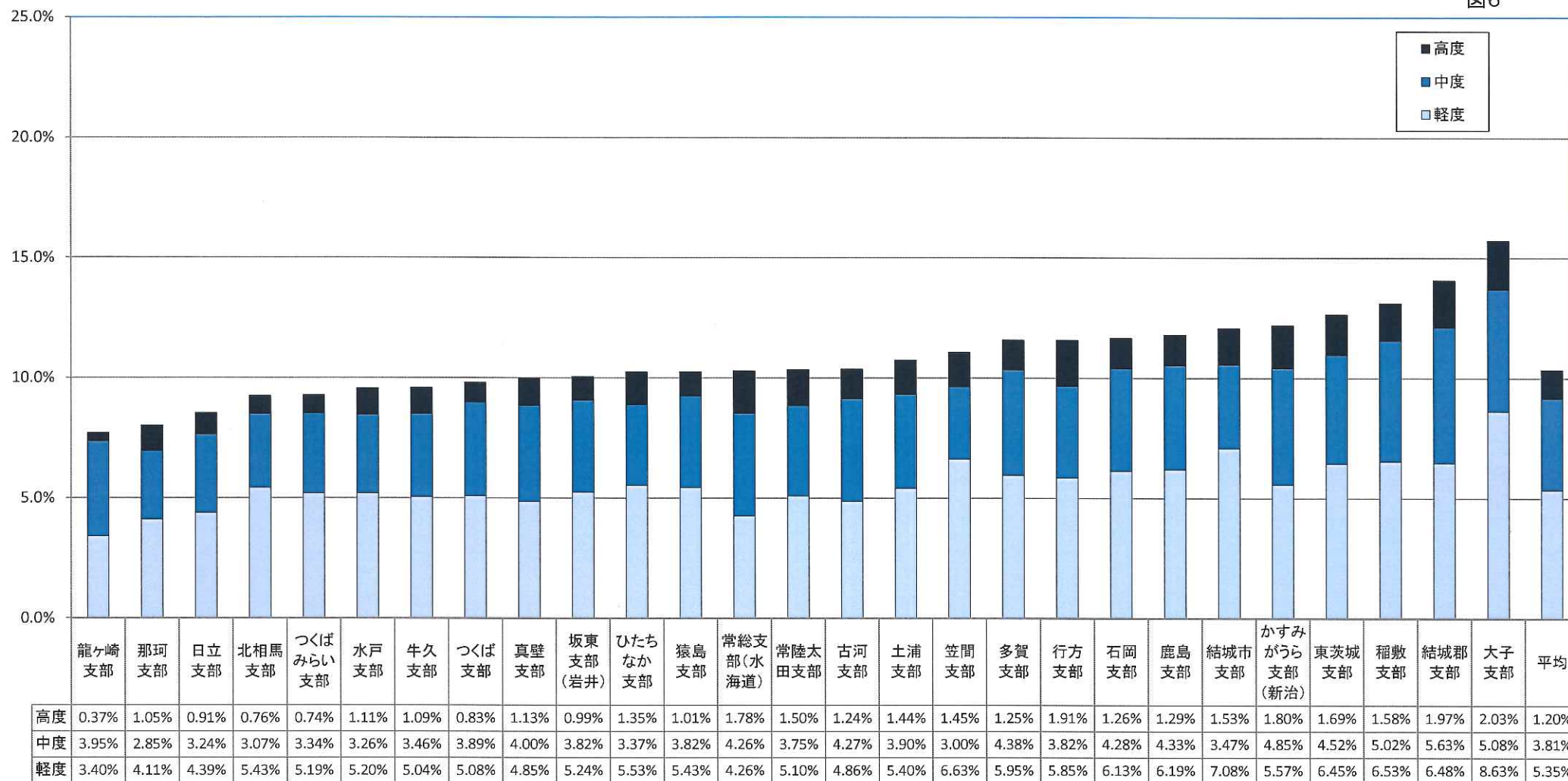
平成26年度支部別肥満児の割合〔中学校男子〕

図5



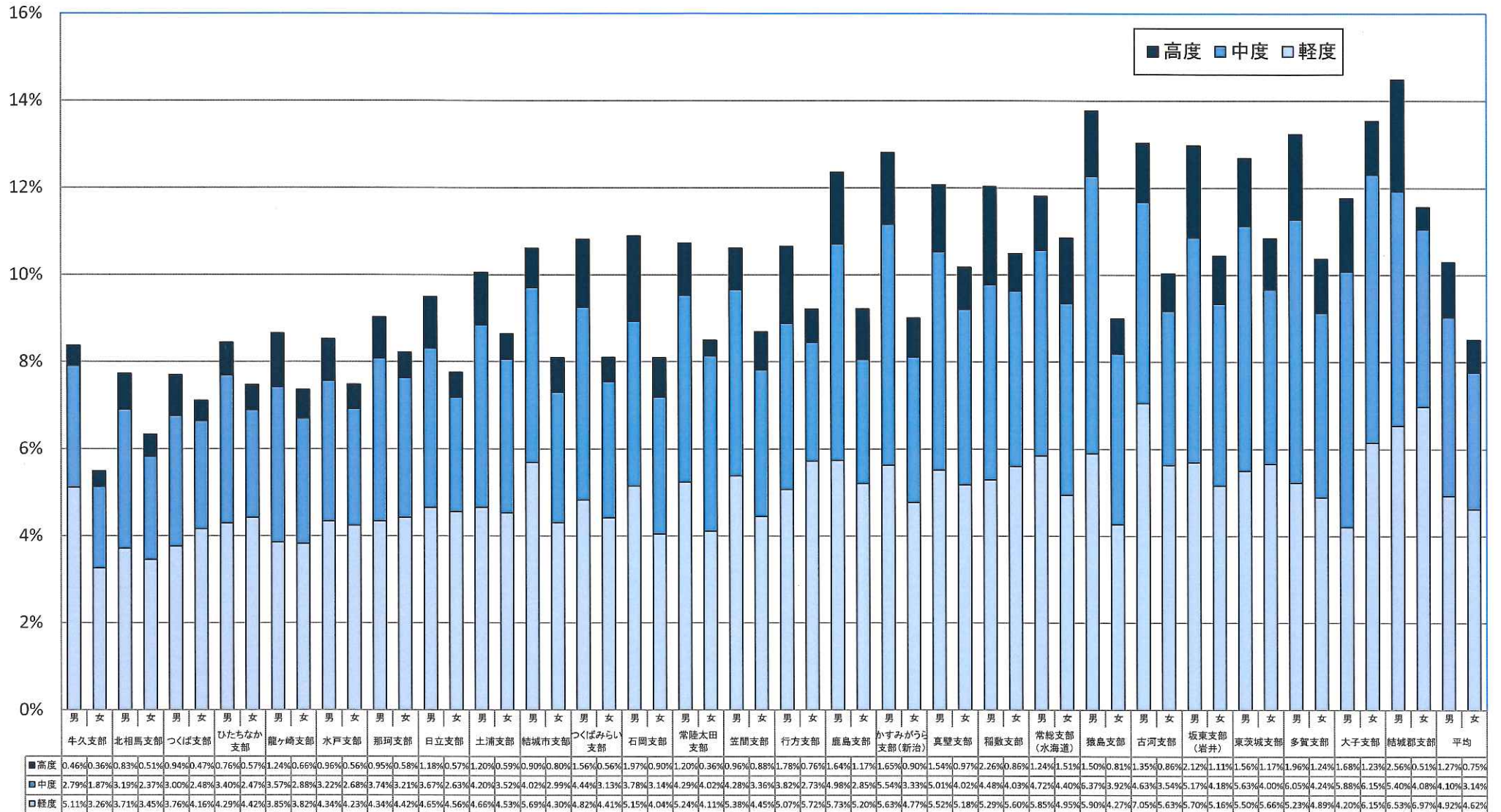
平成26年度支部別肥満児の割合[中学校女子]

図6



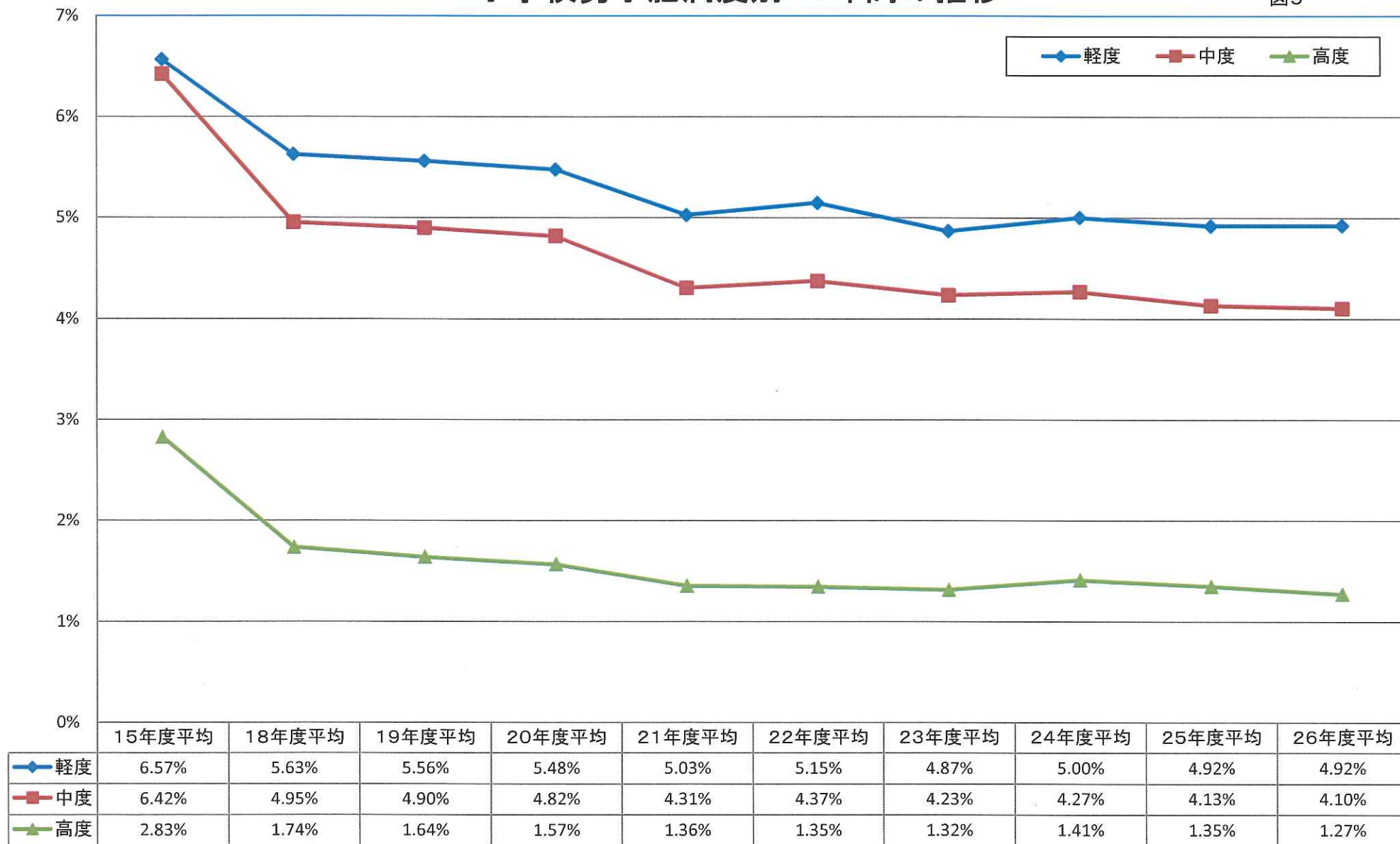
小学校支部別男女別肥満児の割合

図8



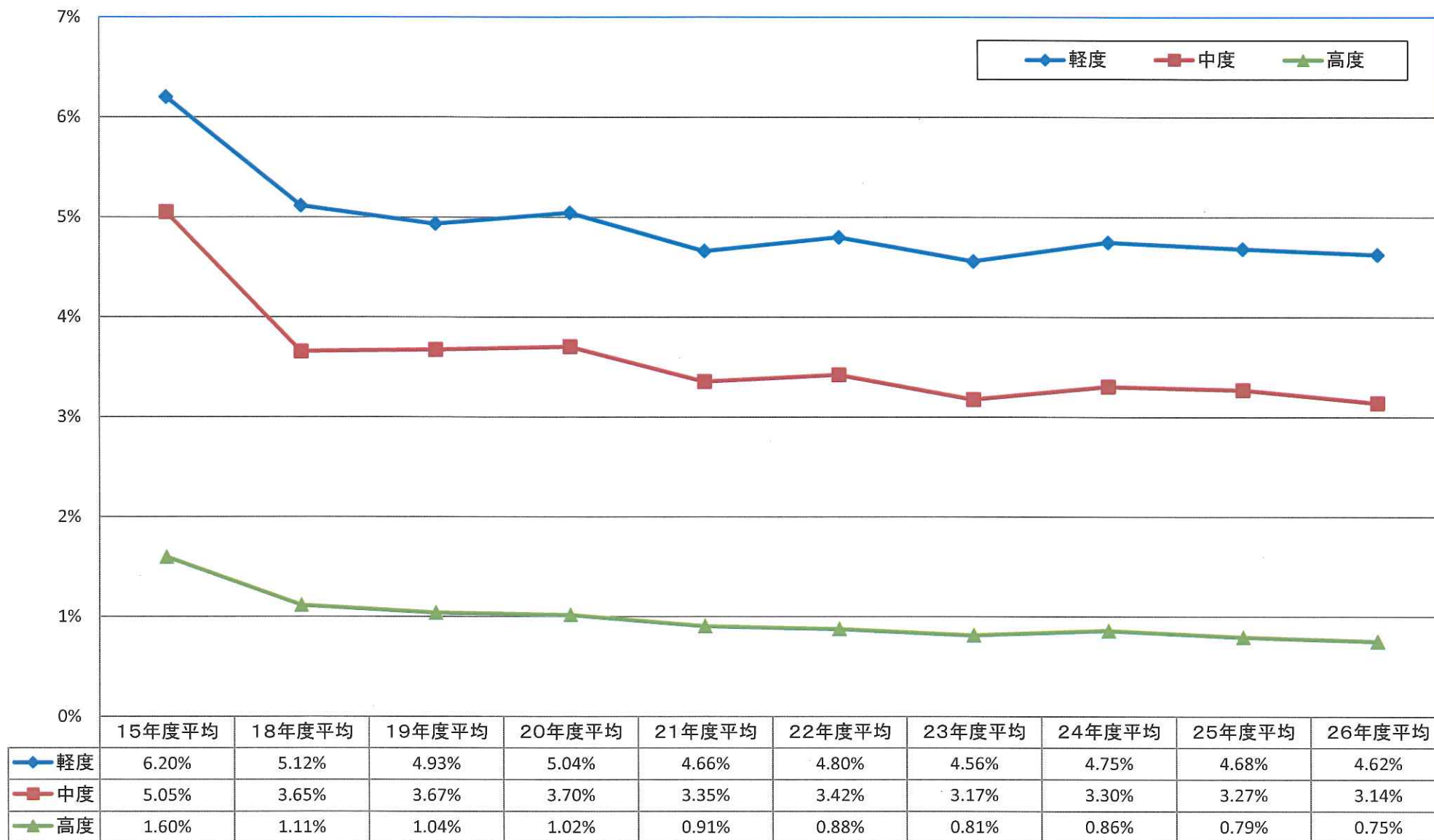
小学校男子肥満度別10年間の推移

図9



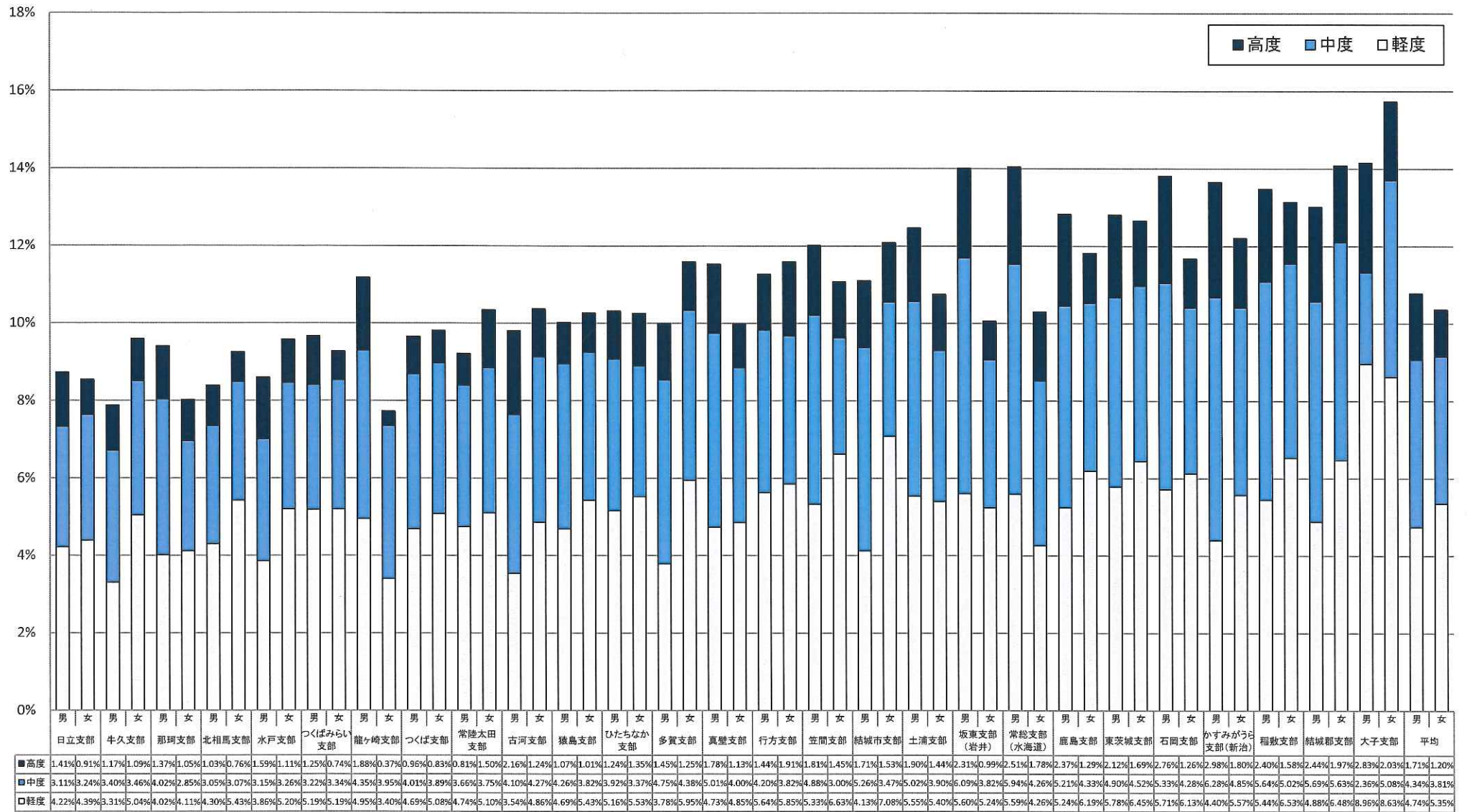
小学校女子肥満度別10年間の推移

図10



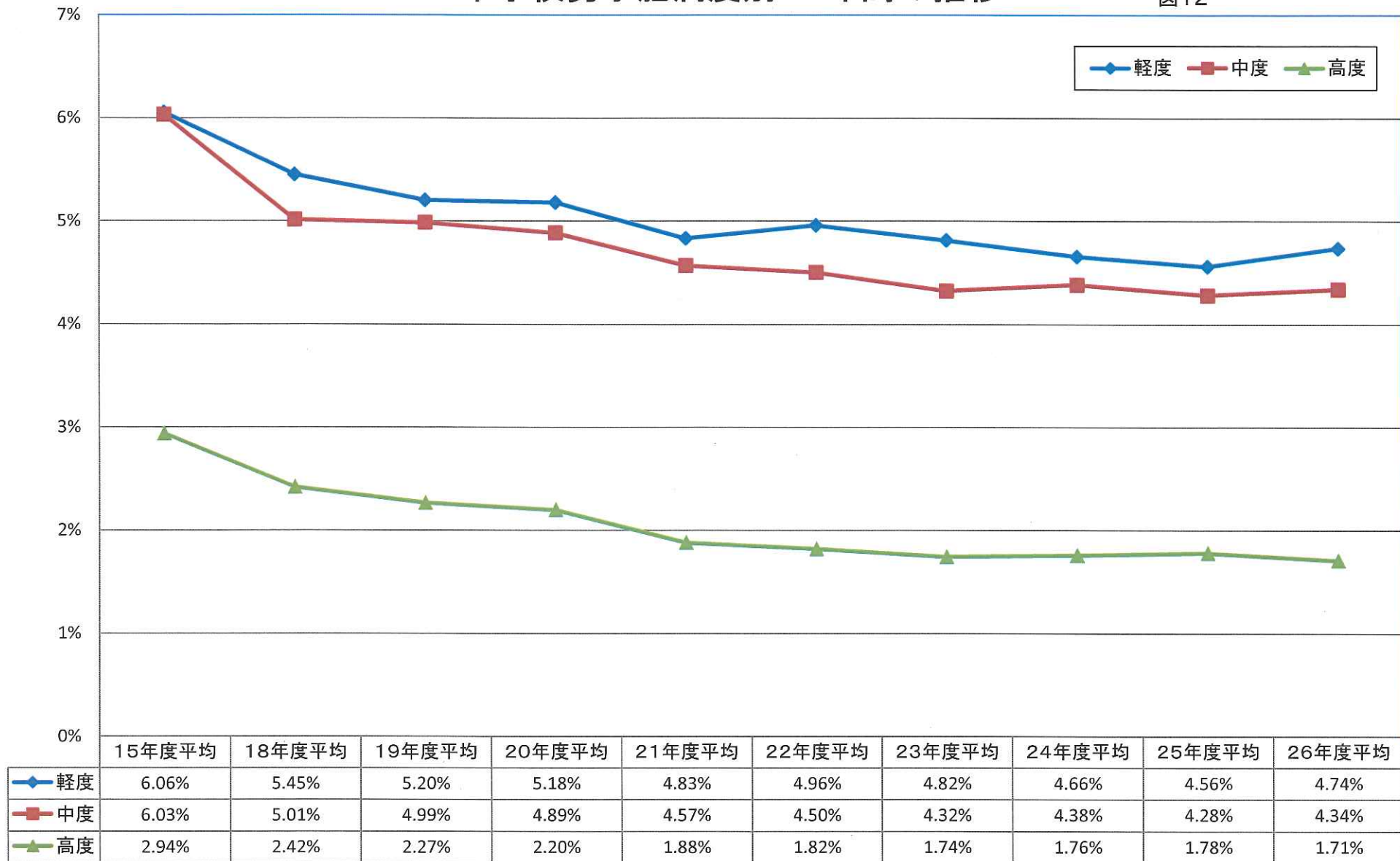
中学校支部別男女別肥満児の割合

図11



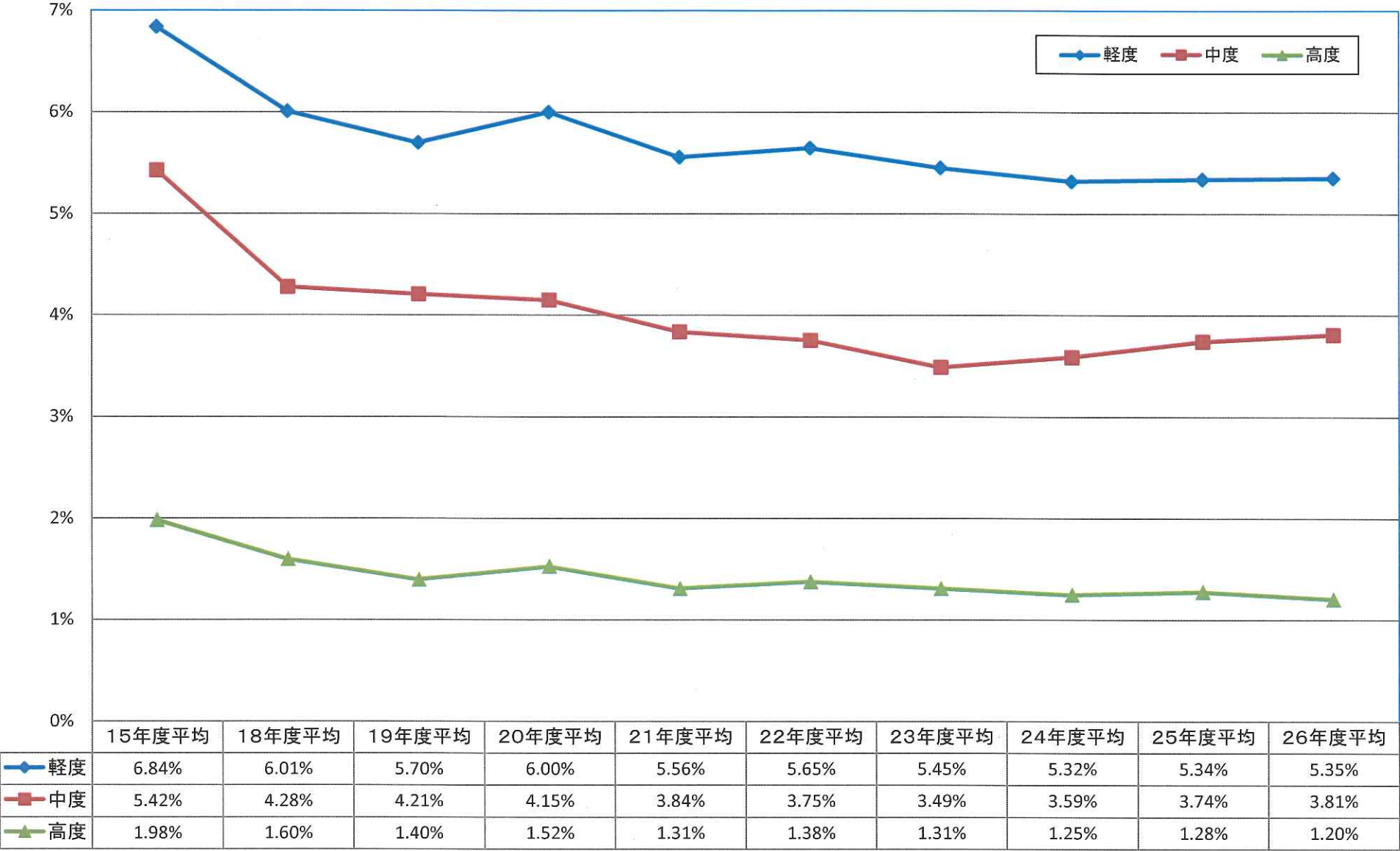
中学校男子肥満度別10年間の推移

図12



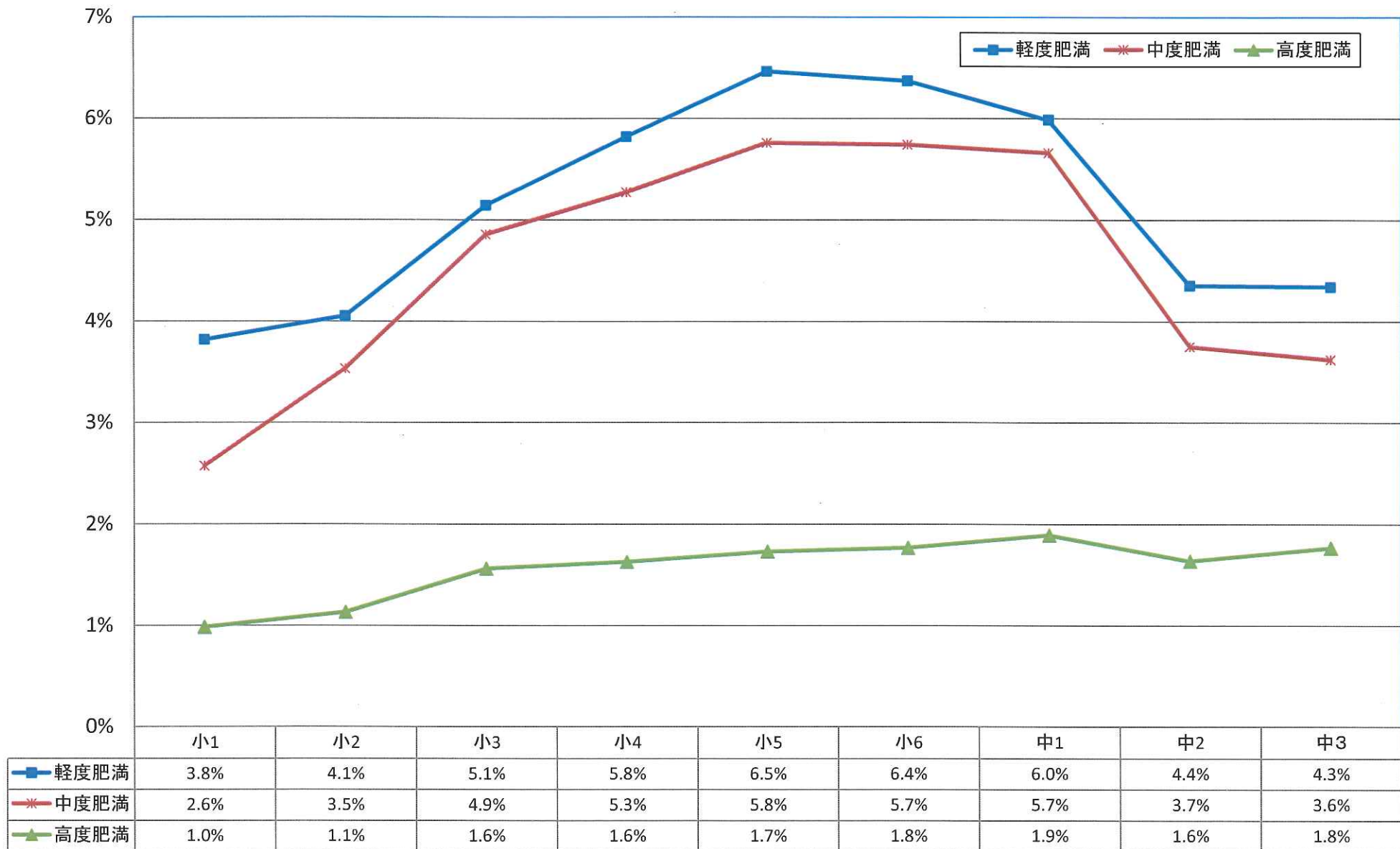
中学校女子肥満度別10年間の推移

図13



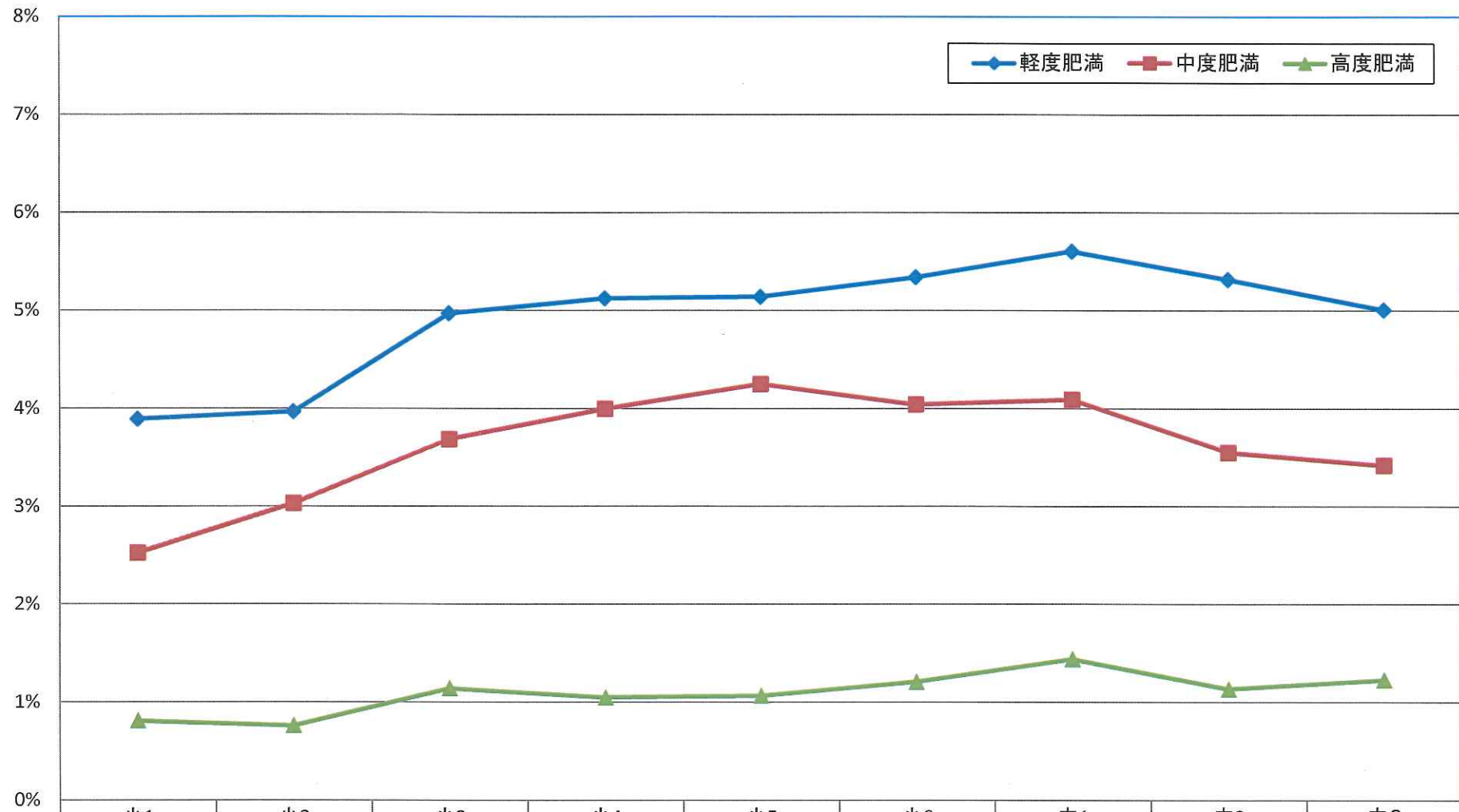
平成18年度小学校入学児童肥満児の9年間の推移(男子)

図18-5



平成18年度小学校入学児童肥満児の推移(女子)

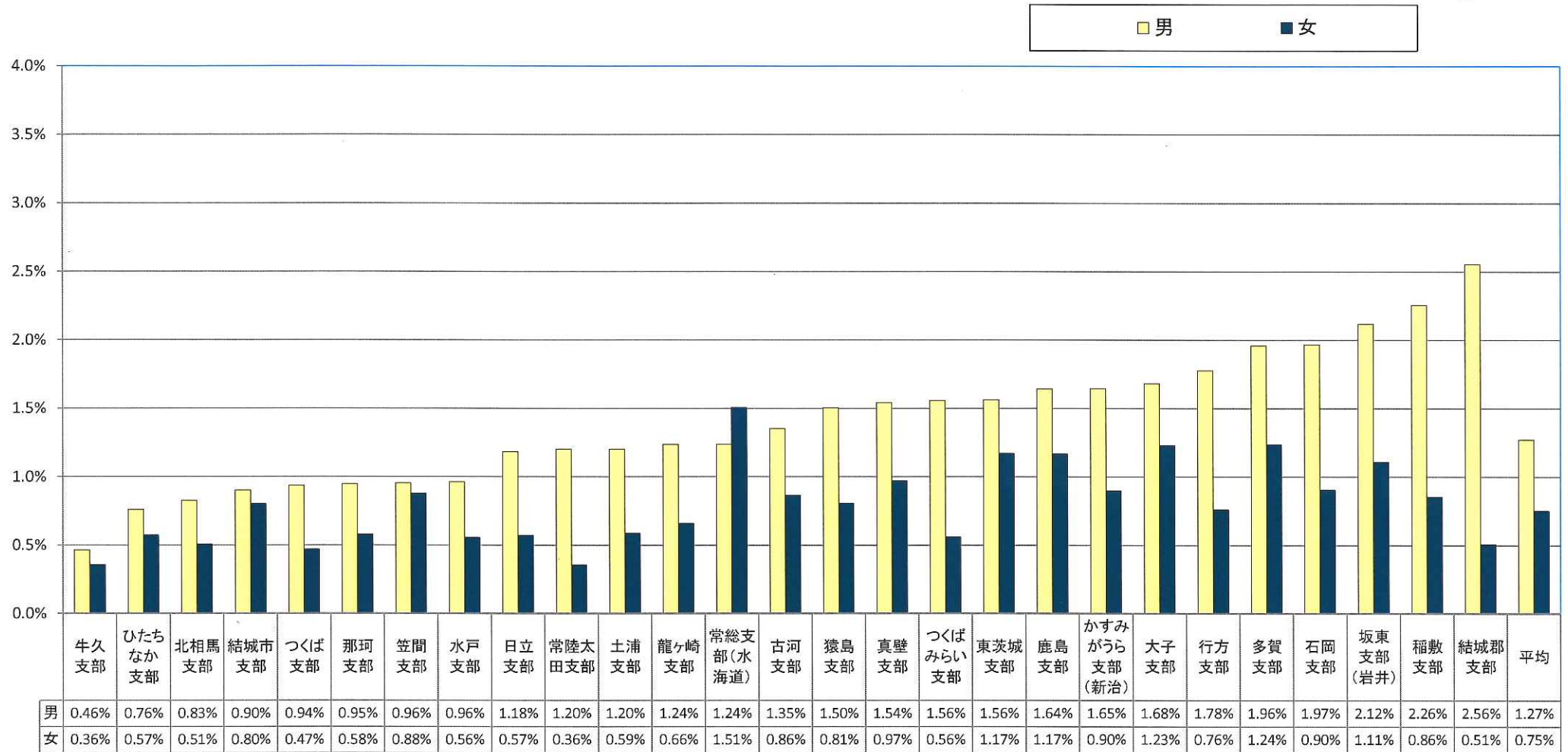
図19-5



	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
軽度肥満	3.9%	4.0%	5.0%	5.1%	5.1%	5.3%	5.6%	5.3%	5.0%
中度肥満	2.5%	3.0%	3.7%	4.0%	4.2%	4.0%	4.1%	3.5%	3.4%
高度肥満	0.8%	0.8%	1.1%	1.0%	1.1%	1.2%	1.4%	1.1%	1.2%

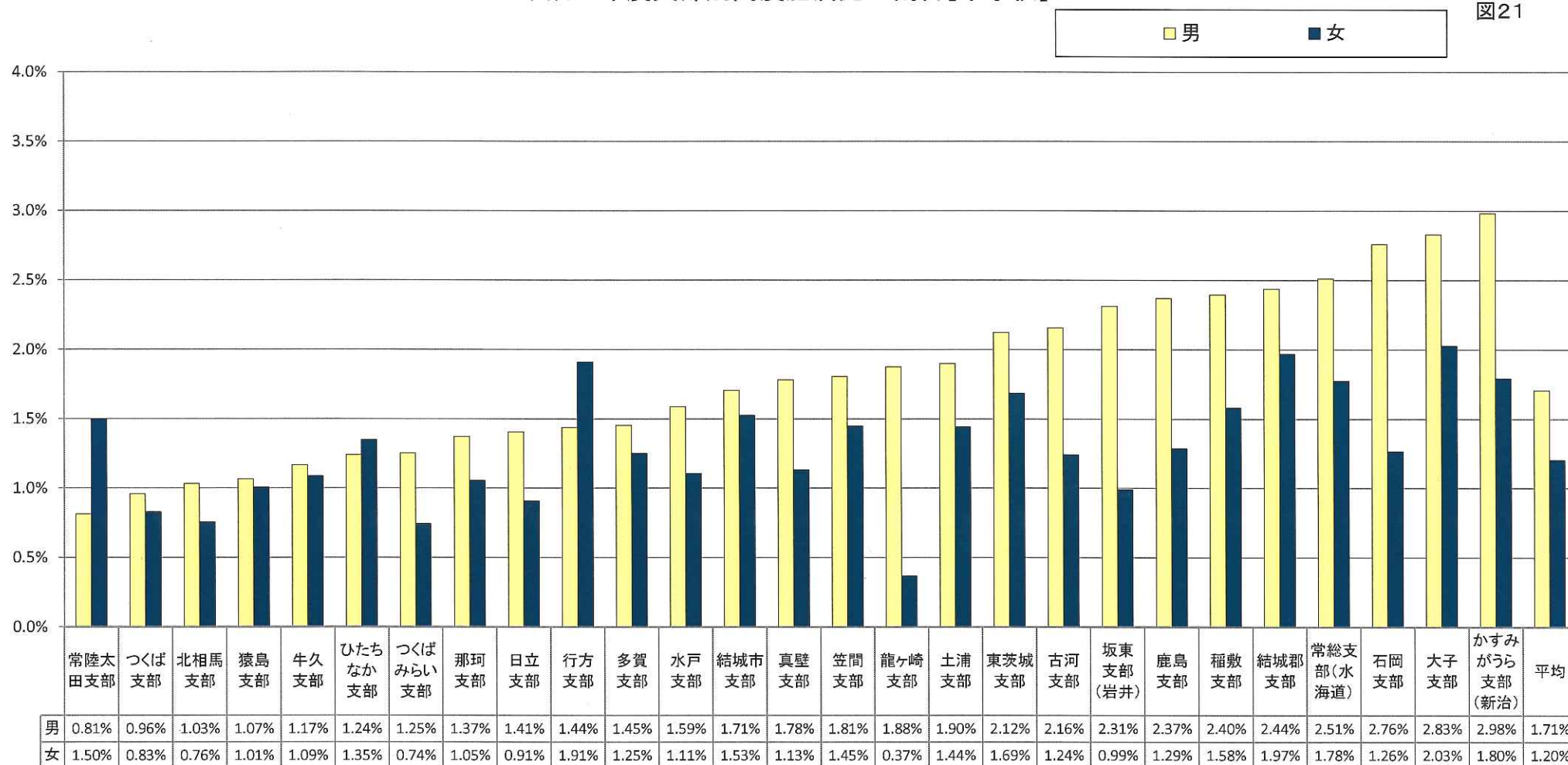
平成26年度支部別高度肥満児の割合〔小学校〕

図20



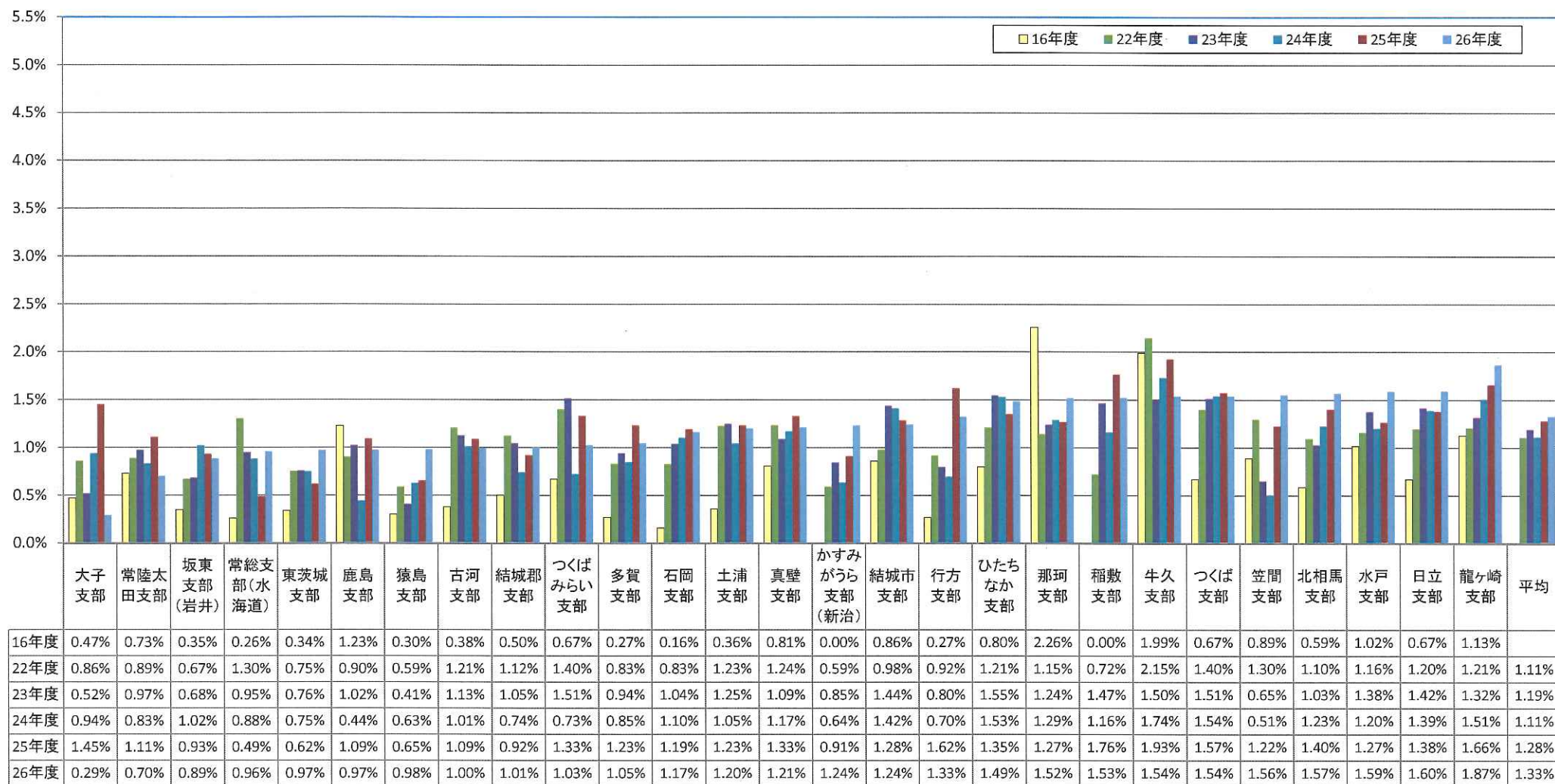
平成26年度支部別高度肥満児の割合[中学校]

図21



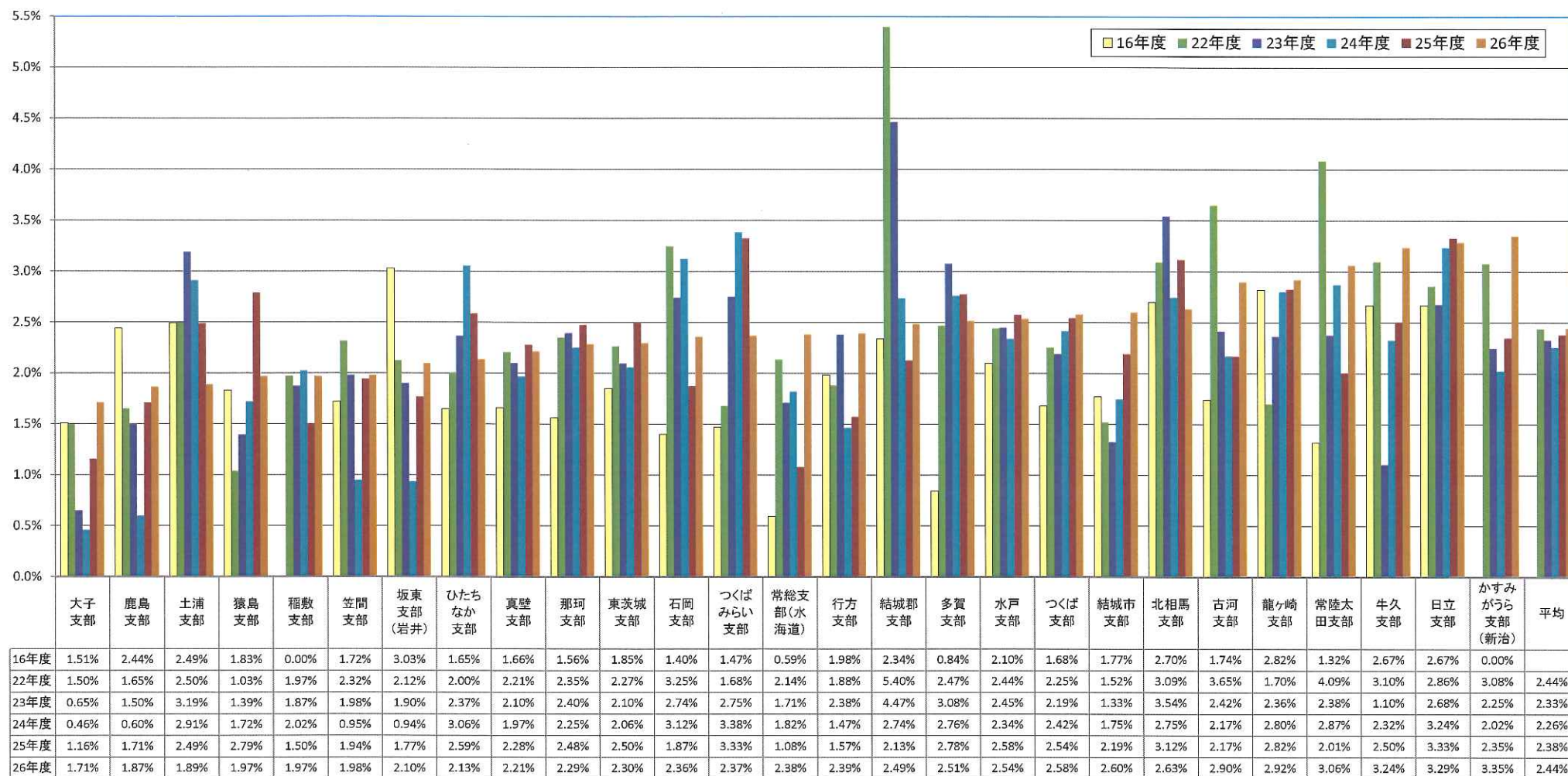
平成26年度支部別やせの割合[小学校]

図22



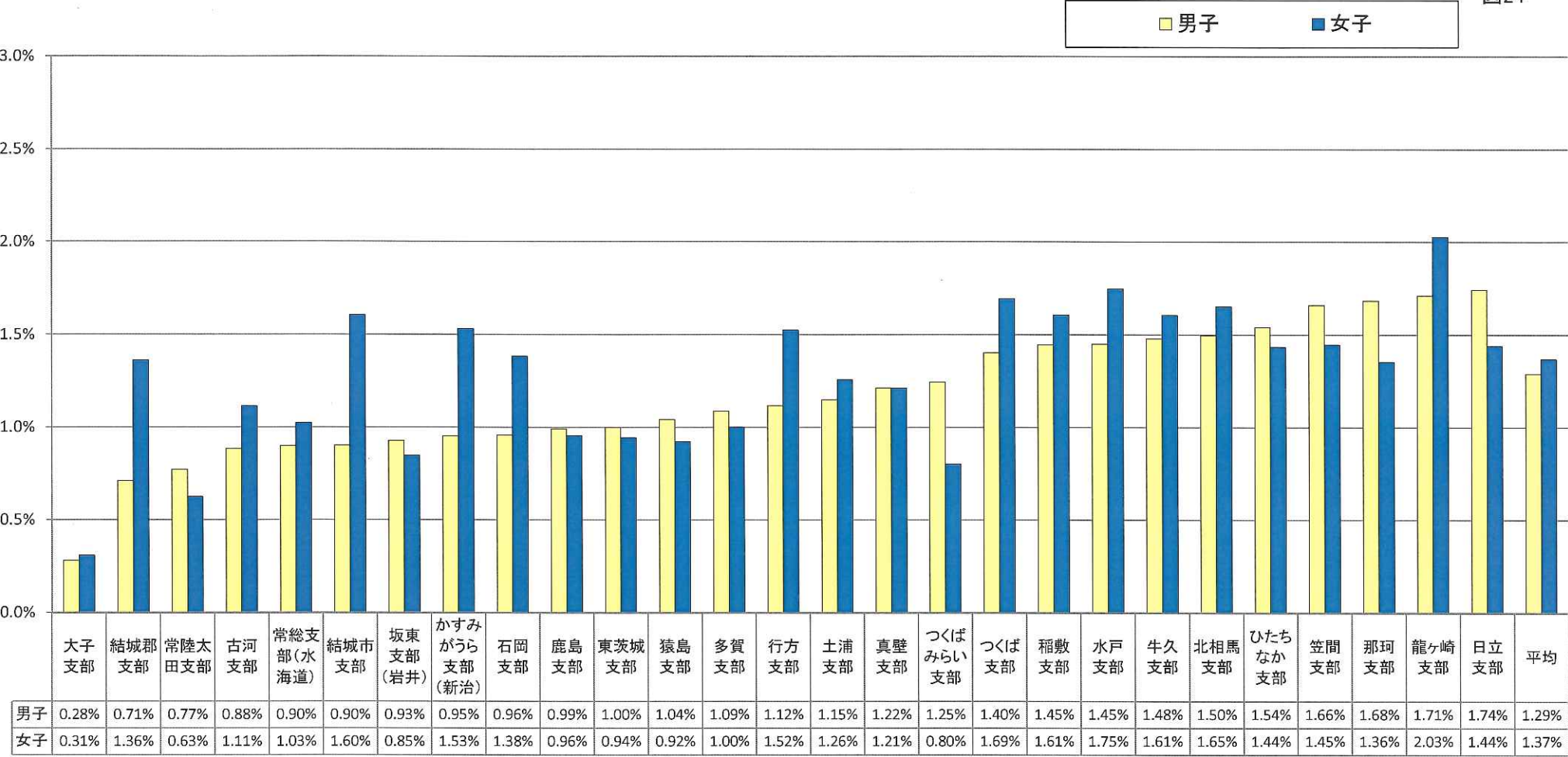
平成26年度支部別やせの割合[中学校]

図23



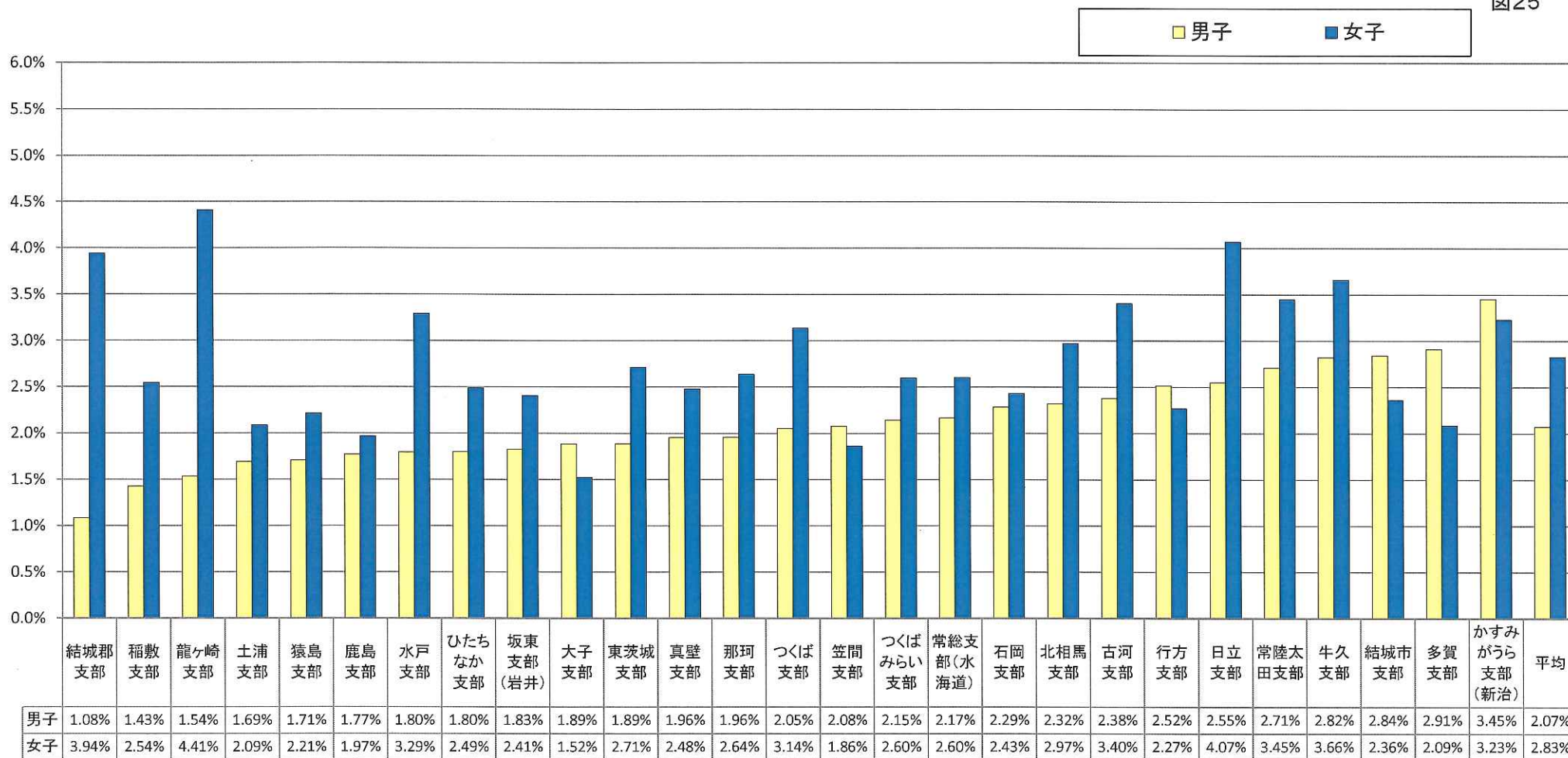
平成26年度小学校男女別やせの割合

図24



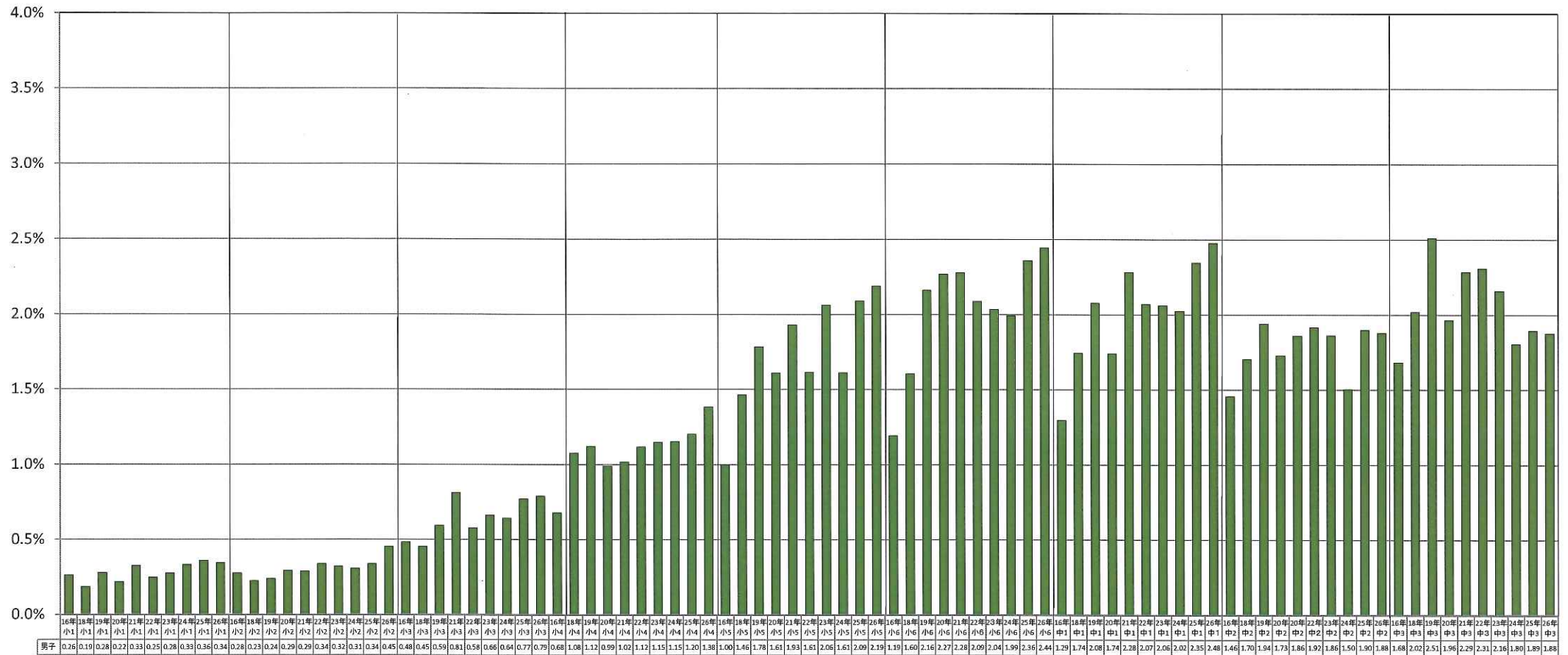
平成26年度中学校男女別やせの割合

図25



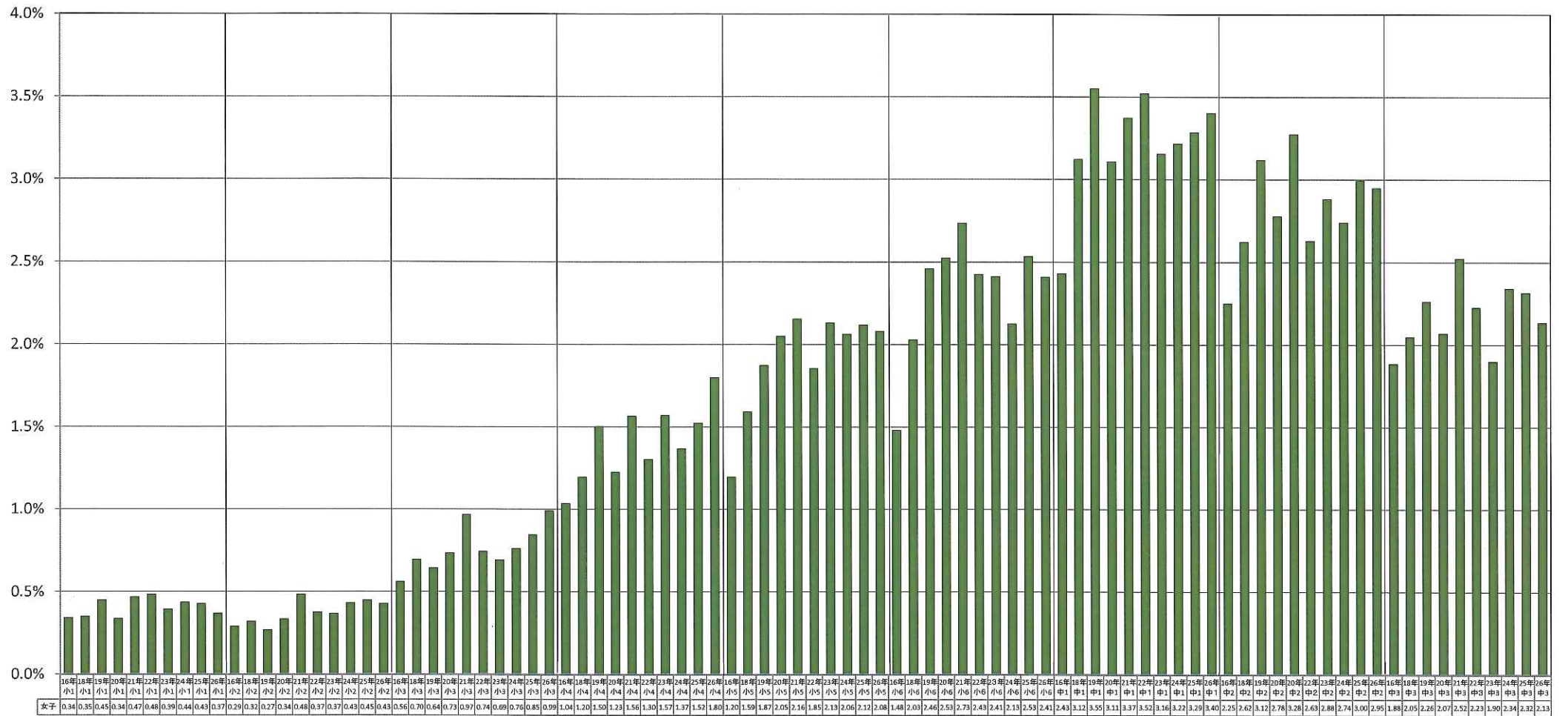
平成26年度学年別やせの割合[男子](過去10年間)

図27



平成26年度学年別やせの割合[女子](過去10年間)

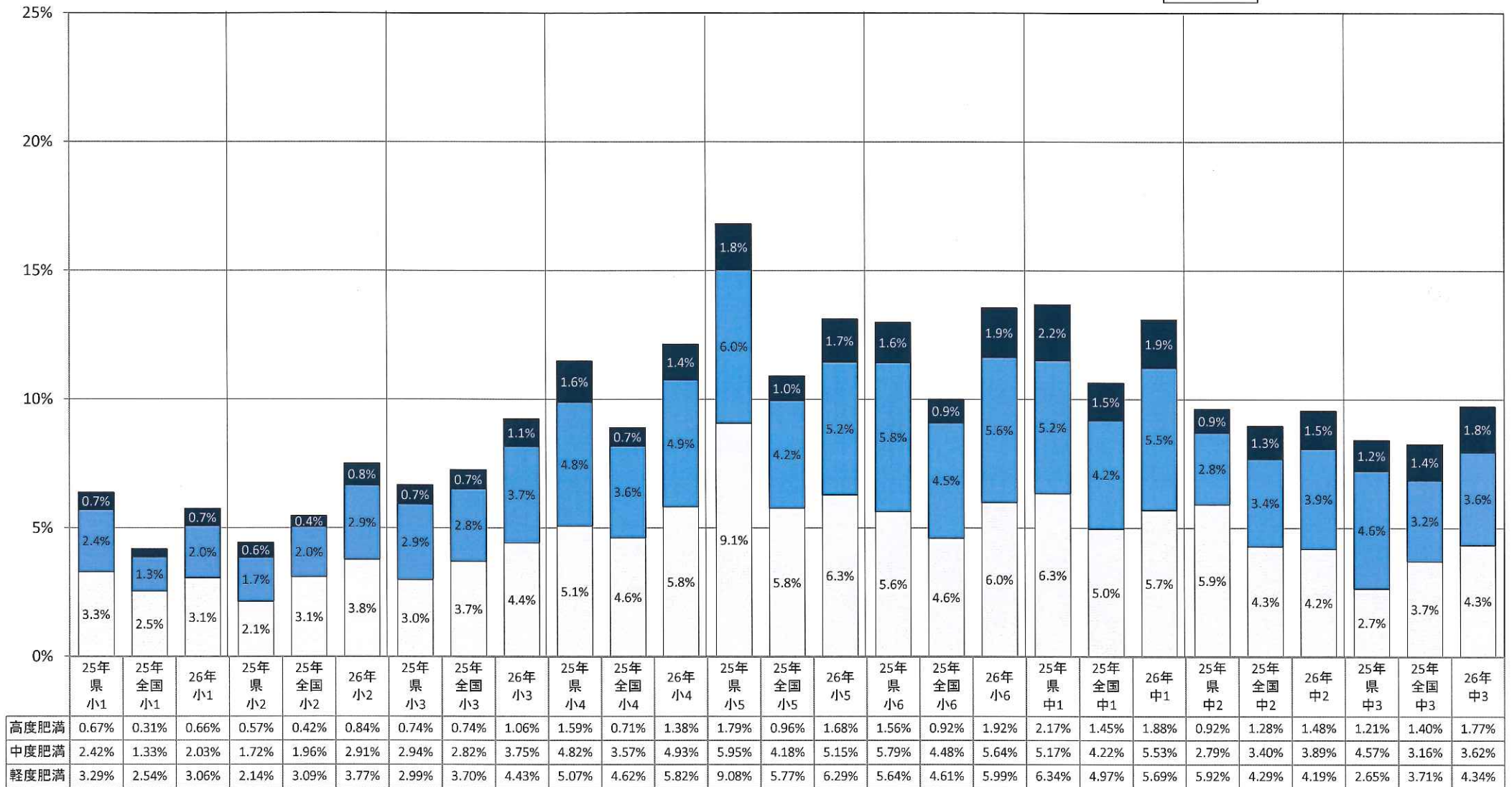
図28



平成26年度学年別肥満児の全国との比較[男子]



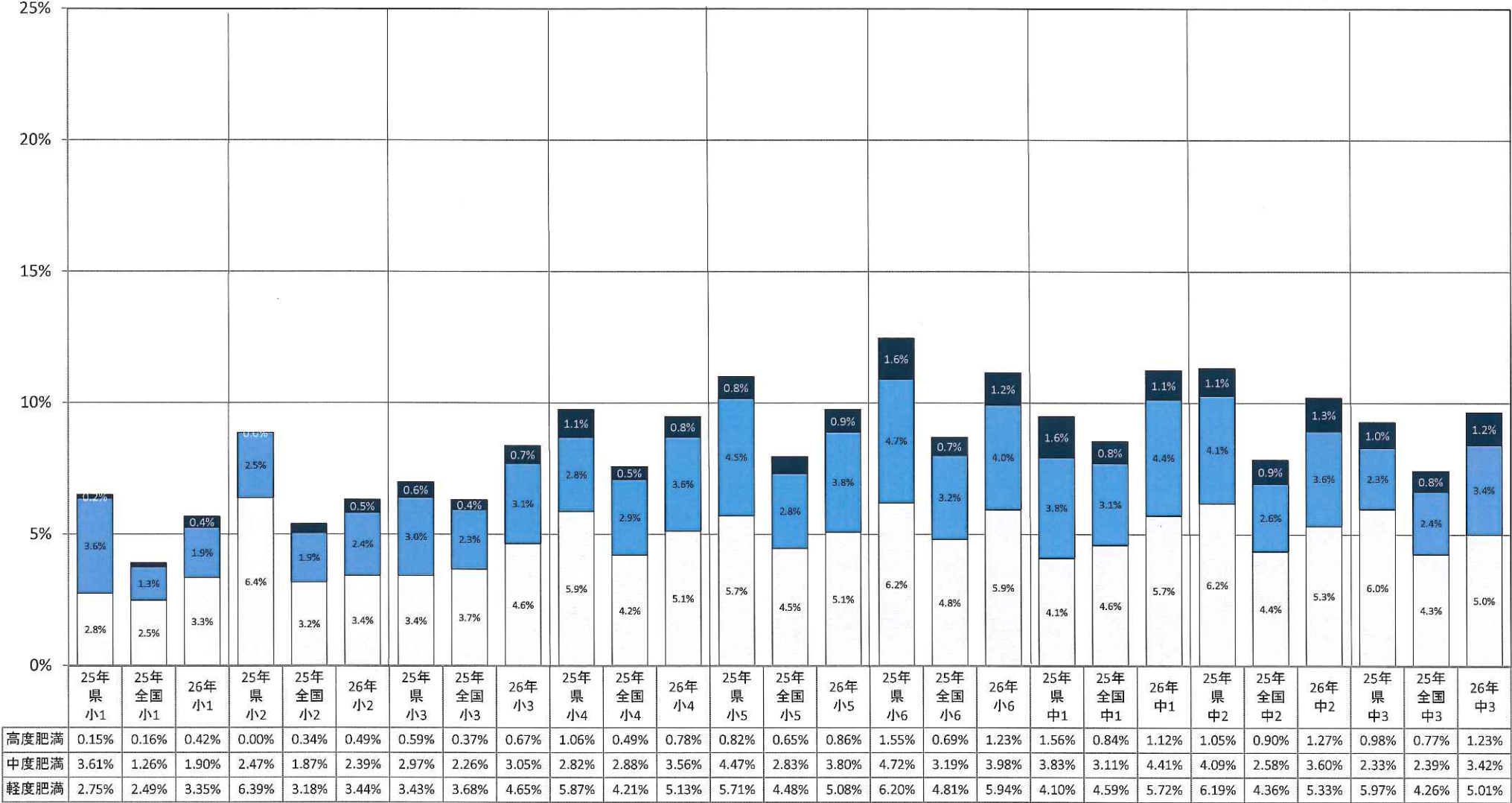
図31



平成26年度学年別肥満児の全国との比較[女子]



図32



平成 26 年度肥満調査結果の考察

平成 14 年度から行っている肥満調査（やせについては平成 16 年度から調査）を、茨城県学校保健会 27 全支部の協力を得て、県内の小学生 154,715 名、中学生 78,794 名、計 233,509 名を対象に実施し、その結果をまとめた。

1 支部別肥満児の割合

1) 小学校（図 1・2・3）

- ・ 年々減少している肥満児の割合は平成 21 年度から 10%未満になり、今年度も 10%未満の 9.43%だった。今年度は昨年度よりも 0.14%減少していた。
- ・ 肥満児の割合が 10%未満だった支部は、昨年度より 2 支部増の 15 支部であった。
- ・ 肥満児の割合が低率である上位 15 支部は、牛久・北相馬・つくば・ひたちなか・龍ヶ崎・水戸・那珂・日立・土浦・結城市・つくばみらい・石岡・常陸太田・笠間・行方であり、低率上位に石岡と常陸太田の 2 支部が加わった。
- ・ 肥満児の割合が高率である下位 3 支部は、結城郡・大子・多賀で、昨年度下位 3 支部に入っていた東茨城は、肥満児の割合が 11%台に減少した。
- ・ 肥満児の割合が昨年度同様または減少した支部は 18 支部に増えたが、9 支部は肥満児の割合が昨年度より増加していた。肥満児の増加の割合が高率であった支部は、常総・古河・稲敷だった。

2) 中学校（図 4・5・6）

- ・ 小学校同様、年々減少していた肥満児の割合は今年度 0.04%増加し、昨年並みの 10.58%であった。
- ・ 肥満児の割合が低率である上位 6 支部は、日立・牛久・那珂・北相馬・水戸・つくばみらいで、昨年度、つくばみらいは肥満児の割合が増加したが、今年度は一昨年度並みまで戻った。一方、日立の肥満児の割合は 8%台であるが、昨年度に比べて 0.8%増加していた。
- ・ 肥満児の割合が高率である下位 2 支部は結城郡と大子で、かすみがうらは肥満児の割合が 12%台を保ち、坂東は 12%台に減少した。
- ・ 昨年より肥満児の割合が減少した支部は 13 支部である。
- ・ 肥満児の割合が 10%未満だった支部は 2 支部増の 9 支部だった。

3) 小学校と中学校の比較（図 7）

- ・ 例年年同様、小学校より中学校の方が肥満児の割合は 1.15%多かった。

4) 男女の比較（図 9・10・12・13）

- ・ 小学校は男女とも、軽度・中度・高度の割合が増加することなく、昨年と同様、減少傾向が見られた。（図 9・10）
- ・ 中学校は、男女とも高度の割合は減少したが、軽度・中度の割合は増加した。（図 12・13）

2 学年別肥満児の割合

1) 9 年間の同一集団内の経時推移（図 18-5・19-5）

- ・ 平成 18 年度小学校入学の肥満児童の 9 年間の変化（男子）を見ると、高度は小学校低学年でゆるやかに増加するが、その後横ばいが続く。中度・軽度は小学校 5・

6 年までは増加し、中学校入学後大きく減少した。(図 18-5)

- ・ 平成 18 年度小学校入学の肥満児童の 9 年間の変化(女子)を見ると、高度は小学 1 年から中学 3 年まではほぼ横ばいで肥満児の割合に変化は見られない。中度・軽度は男子のような大きな変化は見られないが、小学校高学年まで緩やかに増加し、中学校入学後緩やかに減少した。(図 19-5)

2) 高度肥満児の割合(図 20・21)

- ・ 小学校について支部別男女別に見ると、男子の割合が多く、平均は男子 1.27%、女子 0.75%であるが、常総のみ女子の割合が高い。男女とも平均内に入っているのは 12 支部である。(図 20)
- ・ 中学校も小学校と同様の結果で、平均は男子 1.71%、女子 1.20%で、男子の割合が高いが、常陸太田・行方・ひたちなかは女子の割合が高い。男女とも平均内に入っているのは 12 支部であるが、男女とも小学校より平均値が高くなっている。(図 21)

3 やせについて

1) 支部別の割合(図 22・23)

- ・ 今年度も小・中学校ともやせの割合は増加していた。
- ・ 小学校で昨年度よりやせの割合が減少したのは 15 支部、中学校では 11 支部だった。

2) 男女別の割合(図 24・25)

- ・ 女子の方がやせの割合が多い。中学校は男子 2.07%、女子 2.83%と、男女差が大きい。

3) 小・中学校別の割合(図 26)

- ・ 全ての支部で小学校(平均 1.33%)より中学校(平均 2.44%)の方がやせの割合が多い。

4) 過去 10 年間の学年別割合(図 27・28)

- ・ 男子は年々増加し、小学 5 年生で大きく増加、小 6・中 1 と大きな変化はなく、その後減少傾向が見られる。
- ・ 女子は学年が進むにつれて中 1 までは増加するが、中 2 から減少する傾向にある。

4 全国平均との比較

1) 肥満児の割合(図 31・32)

- ・ 男女ともすべての学年で全国平均を上回っている。
- ・ 男子は学年が上がるにつれて全国平均との差が開くが、小 6 をピークに肥満児の割合は減少して全国平均に近づいた。しかし、今年度は中 3 で肥満児の割合が再び増加して全国平均との差を広げた。
- ・ 女子も全国平均との差は大きいですが、小 6 をピークに、肥満児の割合は減少していく。

2) やせの割合(図 33・34)

- ・ 男子は小 1、小 2 では全国平均と大差は無いが、小 3 から小 6 にかけてやせの割

合は全国平均を下回っている。しかし中1以降やせの割合は全国平均を上回っている。

- ・ 女子はどの学年もやせの割合は全国平均を下回っているが、中1まではその割合は学年とともに増加している。その後、中2・中3とやせの割合は減少していく。全国平均と同じ傾向である。

5 まとめと今後の課題

平成14年度から肥満調査を実施してきて、年々順調に減少してきた肥満児の割合は平成19年度頃から減少率が緩やかになり、小学校では隔年で増減が見られる状況であるが、今年度もその割合は10%未満を維持し、昨年度よりもさらに減少していた。中学校の肥満児の割合は、今年度もわずかであるが増加しているが、11%未満を維持している。小・中学校とも、年によって増減を繰り返し、これ以上の減少はないかと思われるが、小学校では10%未満が6年間、中学校では11%未満が4年間続いている。さらに次年度以降の動向に注目していきたい。

小学校に入学してから9年間の推移は、高度肥満の割合にあまり変化はなく、中度・軽度肥満に増減が見られた。中学校に入学すると減少していた肥満の割合は、中度・軽度肥満の生徒の割合であり、高度肥満の生徒の割合はほとんど減少していなかったことが分かる。このことから、肥満対策は、高度肥満と中度・軽度肥満の二本立てが効果的と考える。

今年度初めての試みとして、高度肥満児童生徒の受診状況を調査してみたところ、一番受診率が高いのは小学校1年生で、以降は段々と受診率は低くなっていくが、小4と中2では受診率が上がっていた。これは、小4で生活習慣病検査、中2で貧血検査を実施している市町村が多いためと考えられる。これらの検査結果を踏まえ、改めて受診を考えるきっかけになっているのではないかと考えられる。

全国平均と比較すると本県はまだまだ肥満児の割合が多い。高度肥満児が全国平均の約2倍となっている学年が男女共にみられた。高度肥満の割合は入学後も増加していき、中学校入学後にある程度は減少するが、大きな変化は見られない。高度肥満の解消の難しさを考えると、就学前の幼児期や小学校低学年での肥満を解消するための対策を講じたい。今年度も、家庭はもちろん、幼稚園や保育所との連携を推進することと、小学校での食育指導や運動習慣の定着等への取り組みが課題であり、さらなる肥満予防対策や学校含めての生活習慣の改善に努力する必要があると考えています。特に、小学校3年生までの肥満児童の医療機関への受診率を上げるような働きかけを進めたい。

今年度は肥満児の多い地域、少ない地域にやや変化が見られたが、生活習慣はもちろん地域のいろいろな環境など特色も関係すると考えられる。保護者や学校医・学校歯科医・行政など地域関係機関などと連携し改善を図る必要がある。基本は、児童生徒及び保護者なので、その意味でも、生活習慣記録表の活用を呼びかけていきたい。そして、『朝ごはん100%』の推進や、「咀しゃくからみた肥満対策」としてよくかんで食べることなど、食育・食習慣への取り組みをさらにすすめて行いたい。

やせの割合は例年全国平均より少なかったが、今年度は中学校男子でその割合が全国平均を上回る結果になっていた。よりよい生活習慣を身につけることができるよう、肥満児と同様、注意して見ていく必要がある。